



⑨ 保健体育問題の解答について（注意）

- 1. 解答はすべて、別紙のマークシートに記入すること。
- 2. マークシートは、電算処理するので、折り曲げたり、汚したりしないこと。また、マーク欄はもちろん、余白にも不要なことを書かないこと。
- 3. 記入は、HBまたはBの鉛筆を使って、ていねいに正しく行うこと。（マークシート右上の記入方法を参照）消去は、プラスチック消しゴムで念入りに行うこと。
- 4. 名前の記入 名前を記入すること。
- 5. 教科名の記入 教科名に「保健体育」と記入すること。
- 6. 受験番号の記入 受験番号欄に5けたの数で記入したのち、それをマークすること。
- 7. 解答の記入 ア. 小問の解答番号は1から60までの通し番号になっており、例えば、25番を

25

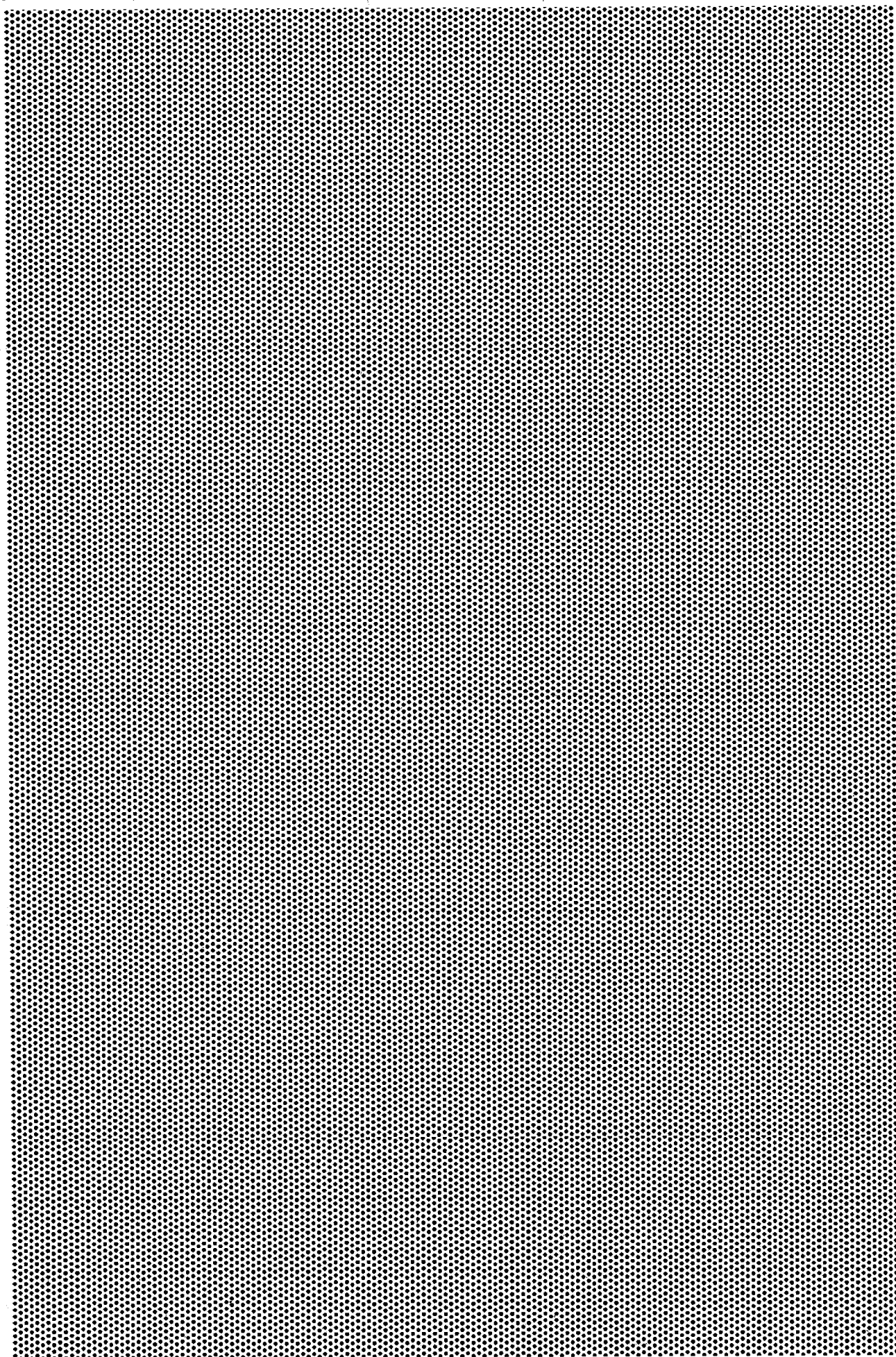
 のように表示してある。
イ. マークシートのマーク欄は、すべて1から0まで10通りあるが、各小問の選択肢は必ずしも10通りあるとは限らないので注意すること。
ウ. どの小問も、選択肢には①、②、③……の番号がついている。
エ. 各問いに対して一つずつマークすること。

（マークシート記入例）

フリガナ	コウベタロウ
名前	神戸太郎
教科名	保健体育

数字で記入……

受験番号					小問番号	解答記入欄	小問番号	解答記入欄	小問番号	解答
						1 - 25		26 - 50		51
1	2	3	4	0	1	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	26	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	51	0 0 0 0
0	0	0	0	0	2	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	27	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	52	0 0 0 0
0	0	0	0	0	3	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	28	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	53	0 0 0 0
0	0	0	0	0	4	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	29	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	54	0 0 0 0
0	0	0	0	0	5	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	30	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	55	0 0 0 0
0	0	0	0	0	6	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	31	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	56	0 0 0 0
0	0	0	0	0	7	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	32	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	57	0 0 0 0
0	0	0	0	0	8	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	33	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	58	0 0 0 0
0	0	0	0	0	9	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	34	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	59	0 0 0 0
0	0	0	0	0	10	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	35	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	60	0 0 0 0
0	0	0	0	0	11	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	36	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	61	0 0 0 0



【1】 次の問いに答えよ。

(1) 「小学校（中学校）学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」（平成29年7月 文部科学省）における「第2章 道徳教育の目標」に関する記述のうち、内容が適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。なお、文中に「児童」とあるのは、中学校・特別支援学校中等部では「生徒」に読み替えなさい。

- ① 学校における道徳教育は、児童の発達段階を踏まえて行われなければならない。その際、多くの児童がその発達段階に達するとされる年齢は目安として考えられるものであるが、児童一人一人は違う個性をもった個人であるため、それぞれ能力・適性、興味・関心、性格等の特性等は異なっていることにも意を用いる必要がある。
- ② 特別活動における学級や学校生活における集団活動や体験的な活動は、日常生活における道徳的な実践の指導を行う重要な機会と場であり、道徳教育において果たす役割は大きい。
- ③ 道徳科の中で道徳的価値の理解のための指導を行う際には、特定の道徳的価値を絶対的なものとして指導したり、本来実感を伴って理解すべき道徳的価値のよさや大切さを観念的に理解させたりする学習に終始することのないように配慮することが大切である。
- ④ 道徳的判断力は、道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情のことである。人間としてのよりよい生き方や善を志向する感情であるとも言える。的確な道徳的判断力をもつことによって、それぞれの場面において機に応じた道徳的行為が可能になる。
- ⑤ 道徳性の諸様相には、特に序列や段階があるということではない。一人一人の児童が道徳的価値を自覚し、自己の生き方についての考えを深め（*中学校では「人間としての生き方について深く考え」）、日常生活や今後出会うであろう様々な場面、状況において、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質を意味している。

- (2) 次の文は、「小学校（中学校）学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」（平成29年7月 文部科学省）における「第5章 道徳科の評価」に関する記述の一部である。（ア）～（ウ）にあてはまる適切な語句の組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。なお、文中に「児童」とあるのは、中学校・特別支援学校中等部では「生徒」に読み替えなさい。

学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育における評価については、教師が児童一人一人の人間的な成長を（ ア ），児童自身の自己のよりよい生き方を求めていく（ イ ）を評価し、それを勇気付ける働きをもつようにすることが求められる。そして、それは教師と児童の温かな（ ウ ）な触れ合いに基づいて、共感的に理解されるべきものである。

- | | | | | | | |
|---|---|-----|---|----|---|-----|
| ① | ア | 見守り | イ | 努力 | ウ | 人格的 |
| ② | ア | 見守り | イ | 態度 | ウ | 情緒的 |
| ③ | ア | 支援し | イ | 態度 | ウ | 人格的 |
| ④ | ア | 支援し | イ | 努力 | ウ | 人格的 |
| ⑤ | ア | 支援し | イ | 努力 | ウ | 情緒的 |

- (3) 次の文は、「小学校（中学校）学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」（平成29年7月 文部科学省）における「第3章 道徳科の内容」に関する記述の一部である。（ア）～（エ）にあてはまる適切な語句の組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

[小学校]

[友情、信頼]

[第1学年及び第2学年]

友達と仲よくし、（ア）こと。

[第3学年及び第4学年]

友達と互いに（イ），信頼し、（ア）こと。

[第5学年及び第6学年]

友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても（イ）ながら、（ウ）を築いていくこと。

[中学校]

[友情、信頼]

友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや（エ）も経験しながら（ウ）を深めていくこと。

- | | | | |
|----------|--------|--------|------|
| ① ア 助け合う | イ 話し合い | ウ 人間関係 | エ 対立 |
| ② ア 助け合う | イ 理解し | ウ 人間関係 | エ 葛藤 |
| ③ ア 助け合う | イ 話し合い | ウ 友人関係 | エ 葛藤 |
| ④ ア 協力する | イ 理解し | ウ 友人関係 | エ 対立 |
| ⑤ ア 協力する | イ 話し合い | ウ 人間関係 | エ 対立 |

【2】「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成29年7月 文部科学省)に関する内容について、次の問いに答えよ。

(1) 次の文は、「総説」の保健体育科改訂の趣旨に関する記述の一部である。文中の(ア)～(ウ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

体力の向上については、心身ともに成長の著しい時期であることを踏まえ、「体づくり運動」の学習を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わわせるとともに、健康や体力の状況に応じて体力を高める(ア)を認識させ、「体づくり運動」以外の運動に関する領域においても、学習した結果としてより一層の体力の向上を図ることができるようにする。

さらに、学習した成果を実生活や実社会に生かすこと及び運動やスポーツの(イ)を促す観点から、体育理論や保健との関連、教科外活動や学校生活全体を見通した(ウ)の工夫を図るようにする。

- | | | | | | | |
|---|---|-----|---|-----|---|------|
| ① | ア | 必要性 | イ | 習慣化 | ウ | 教育課程 |
| ② | ア | 重要性 | イ | 日常化 | ウ | 教育課程 |
| ③ | ア | 必要性 | イ | 日常化 | ウ | 教育課程 |
| ④ | ア | 重要性 | イ | 習慣化 | ウ | 教育計画 |
| ⑤ | ア | 必要性 | イ | 日常化 | ウ | 教育計画 |

4

(2) 次の文は、「総説」の保健体育科改訂の要点に関する記述の一部である。文中の(ア)～(ウ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

「球技」については、従前どおり、生涯にわたって運動に親しむ資質・能力を育成する観点から、攻防を展開する際に共通して見られるボール操作などに関する動きと(ア)についての課題に着目し、その(イ)に応じて、相手コートに侵入して攻防を楽しむ「ゴール型」、ネットを挟んで攻防を楽しむ「ネット型」、攻守を交代して攻防を楽しむ「ベースボール型」に分類し示すとともに、「内容の取扱い」に、第1学年及び第2学年においては、これらの型の全てを履修させることを示した。また、取り扱う種目については、従前から示されている種目の中から取り上げること、「ベースボール型」の実施に当たり十分な広さの運動場の確保が難しい場合は、(ウ)を工夫して行うことを示した。

- | | | | | | | |
|---|---|---------------|---|---------|---|------|
| ① | ア | ボールを持たないときの動き | イ | 成り立ちや特徴 | ウ | 指導方法 |
| ② | ア | ボールに対応するときの動き | イ | 成り立ちや特徴 | ウ | 場の設定 |
| ③ | ア | ボールを持たないときの動き | イ | 成り立ちや特徴 | ウ | 場の設定 |
| ④ | ア | ボールを持たないときの動き | イ | 特性や魅力 | ウ | 指導方法 |
| ⑤ | ア | ボールに対応するときの動き | イ | 特性や魅力 | ウ | 指導方法 |

5

- (3) 次の文は、「総説」の保健体育科改訂の要点に関する記述の一部である。文中の(ア)～(ウ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

3年間の見通しをもった年間指導計画の作成及び指導計画の(ア)等を重視した「カリキュラム・マネジメント」を実現する観点及び「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進する観点から、小学校から高等学校までの12年間を見通して、各種の運動の基礎を培う時期、多くの領域の学習を(イ)時期、卒業後も運動やスポーツに多様な形で関わるようにする時期といった(ウ)のまとまりを踏まえ、小学校段階との接続及び高等学校への見通しを重視し、系統性を踏まえた指導内容の見直しを図ることとした。

- | | | | | | | |
|---|---|----------|---|------|---|-------|
| ① | ア | 検討・実施・修正 | イ | 経験する | ウ | 発育・発達 |
| ② | ア | 実施・評価・改善 | イ | 展開する | ウ | 発達の段階 |
| ③ | ア | 実施・評価・改善 | イ | 経験する | ウ | 発達の段階 |
| ④ | ア | 検討・実施・修正 | イ | 展開する | ウ | 発達の段階 |
| ⑤ | ア | 実施・評価・改善 | イ | 経験する | ウ | 発育・発達 |

6

- (4) 次の文は、「総説」の保健体育科改訂の要点に関する記述の一部である。文中の(ア)～(ウ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

保健体育科においては、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力の育成を重視する観点から、健康な生活と運動やスポーツとの関わりを深く理解したり、心と体が(ア)につながっていることを(イ)したりできるようにすることの(ウ)を改めて示すとともに、体育分野と保健分野の関連を図る工夫の例を新たに示した。

- | | | | | | | |
|---|---|-----|---|----|---|-----|
| ① | ア | 密接 | イ | 体感 | ウ | 重要性 |
| ② | ア | 密接 | イ | 実感 | ウ | 重要性 |
| ③ | ア | 密接 | イ | 実感 | ウ | 必要性 |
| ④ | ア | 間接的 | イ | 体感 | ウ | 重要性 |
| ⑤ | ア | 間接的 | イ | 実感 | ウ | 必要性 |

7

- (5) 次の文は、「保健体育科の目標及び内容」における、教科の目標についての記述の一部である。文中の(ア)～(ウ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

体育分野においては、運動する子供とそうでない子供の二極化傾向が見られることや、様々な人々と協働し自らの生き方を育んでいくことの重要性などが指摘されている中で、体力や技能の程度、(ア)、障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの特性や魅力を実感したり、運動やスポーツが多様な人々を結び付けたり豊かな人生を送ったりする上で重要であることを認識したりすることが求められる。その際、体育の見方・考え方に示されたように、各種の運動やスポーツが有する楽しさや喜び及び(イ)などの視点から、(ウ)等に応じた多様な関わり方を見いだすことができるようになることが、体育分野での学習と社会をつなぐ上で重要なものであることを示したものである。

- | | | | | | | |
|---|---|-------|---|-----------|---|-------|
| ① | ア | 年齢や性別 | イ | 関連して高まる体力 | ウ | 自己の適性 |
| ② | ア | 年齢や性別 | イ | 育成される能力 | ウ | 自己の適性 |
| ③ | ア | 興味や関心 | イ | 育成される能力 | ウ | 自己の体力 |
| ④ | ア | 興味や関心 | イ | 育成される能力 | ウ | 自己の適性 |
| ⑤ | ア | 興味や関心 | イ | 関連して高まる体力 | ウ | 自己の体力 |

8

- (6) 次の文は、「保健体育科の目標及び内容」における、教科の目標についての記述の一部である。文中の(ア)～(ウ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程とは、体育分野においては、各領域特有の特性や魅力に応じた課題を発見し、運動に関わる(ア)や運動に伴う事故の防止等の科学的な知識や技能及びスポーツライフをより豊かにするための知識等を活用して、自らの学習活動を振り返りつつ、仲間とともに課題を解決し、次の学びにつなげられるようにするといった学習の過程を示している。

保健分野においては、(イ)における健康・安全の内容から自他の健康に関する課題を発見し、健康情報や知識を吟味し、活用して多様な解決方法を考えるとともに、これらの中から、適切な方法を(ウ)し、自他の生活に活用したりすることを示している。

- | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|-------|
| ① | ア | 基本原則 | イ | 個人生活 | ウ | 思考・判断 |
| ② | ア | 基本原則 | イ | 社会生活 | ウ | 選択・決定 |
| ③ | ア | 一般原則 | イ | 個人生活 | ウ | 思考・判断 |
| ④ | ア | 一般原則 | イ | 社会生活 | ウ | 選択・決定 |
| ⑤ | ア | 一般原則 | イ | 個人生活 | ウ | 選択・決定 |

9

- (7) 次の文は、「保健体育科の目標及び内容」における、教科の目標についての記述の一部である。文中の（ア）～（エ）にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

体力の向上を目指しとは、運動を適切に行うことによって、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、心身の（ア）を図ることである。体力は、人間の（イ）であり、健康の維持のほか（ウ）といった精神面の充実に大きく関わっており、「（エ）」の重要な要素である。そのためには、体育分野で学習する運動を継続することの意義や体力の高め方などや保健分野で学習する心身の健康の保持増進に関する内容を基に、自己の体力の状況を捉えて、目的に適した運動の計画を立て取り組むことができるようにすることが必要である。

- | | | | |
|------------|----------|---------|---------|
| ① ア 調和的発達 | イ 行動の原動力 | ウ 元気や活力 | エ 資質・能力 |
| ② ア 調和的発達 | イ 活動の源 | ウ 意欲や気力 | エ 生きる力 |
| ③ ア 健やかな発達 | イ 活動の源 | ウ 意欲や気力 | エ 生きる力 |
| ④ ア 調和的発達 | イ 活動の源 | ウ 元気や活力 | エ 資質・能力 |
| ⑤ ア 健やかな発達 | イ 行動の原動力 | ウ 意欲や気力 | エ 資質・能力 |

10

- (8) 次の文は、「指導計画の作成と内容の取扱い」における、体育分野の各領域別授業時数についての記述の一部である。文中の（ア）～（エ）にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

各領域に対する授業時数の配当をどのようにするかは、それぞれの領域について、どの程度（ア）かが重要な目安となる。また、その領域が、小学校から引き続いて学習する領域か、中学校で初めて取り上げる領域であるかを考慮に入れて授業時数の適切な配当を考える必要がある。したがって、（イ）の実態はもとより、カリキュラム・マネジメントの視点及び主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点を踏まえ、生徒の（ウ）、興味・関心等に応じて、体育分野で育成を目指す資質・能力を（エ）に育成することができるよう、3年間を見通した年間計画の作成が極めて重要となる。

- | | | | |
|-------------|----------|---------|-------|
| ① ア 技能が上達する | イ 学校や地域 | ウ 能力・適性 | エ 着実 |
| ② ア 習熟を図る | イ 年間指導計画 | ウ 体力・技能 | エ 着実 |
| ③ ア 習熟を図る | イ 学校や地域 | ウ 能力・適性 | エ 効果的 |
| ④ ア 技能が上達する | イ 学校や地域 | ウ 体力・技能 | エ 着実 |
| ⑤ ア 習熟を図る | イ 年間指導計画 | ウ 能力・適性 | エ 効果的 |

11

- (9) 次の文は、「指導計画の作成と内容の取扱い」における障害のある生徒への配慮に関する記述の一部である。文中の(ア)～(エ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ・勝ち負けや記録にこだわり過ぎて、感情をコントロールすることが難しい場合には、状況に応じて感情がコントロールできるよう、事前に(ア)を立てたり、勝ったときや負けたとき等の感情の表し方について確認したりするなどの配慮をする。
- ・グループでの準備や役割分担が難しい場合には、準備の必要性やチームで果たす役割の意味について理解することができるよう、準備や役割分担の(イ)な明示や生徒の実情に応じて取り組むことができる役割から(ウ)取り組ませるなどの配慮をする。
- ・保健の学習で、実習などの学習活動に参加することが難しい場合には、実習の(エ)が理解できるよう、それらを(イ)に示したり、一つ一つの技能を個別に指導したりするなどの配慮をする。

- | | | | | | | | | |
|---|---|--------|---|-----|---|-----------|---|-------|
| ① | ア | 活動の見通し | イ | 視覚的 | ウ | スモールステップで | エ | 計画や内容 |
| ② | ア | 活動の見通し | イ | 視覚的 | ウ | 段階的に | エ | 手順や方法 |
| ③ | ア | 活動の見通し | イ | 象徴的 | ウ | 段階的に | エ | 計画や内容 |
| ④ | ア | 活動計画 | イ | 象徴的 | ウ | 段階的に | エ | 手順や方法 |
| ⑤ | ア | 活動計画 | イ | 視覚的 | ウ | スモールステップで | エ | 手順や方法 |

- (10) 次の文は、「指導計画の作成と内容の取扱い」における学習内容の確実な定着に関する記述の一部である。文中の（ア）～（エ）にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし、社会をよりよく生きる資質・能力を育成する観点から、学校や生徒の実態に応じた個に応じた指導を推進する必要がある。その際、生徒一人一人が学習内容を確実に身に付ける観点から、学習内容の習熟の程度に応じた指導、個別指導との連携を踏まえた教師間の（ア）指導などの指導方法や指導体制の工夫改善を通じて、（イ）の充実が図られるよう留意することが重要である。

体育分野においては、個に応じた段階的な練習方法の例を示したり、個別学習や（ウ）、（エ）などの学習活動を取り入れたりするなどにより、生徒一人一人が学習内容を確実に身に付けることができるよう配慮することが大切である。

- | | | | | |
|---|--------|-----------|-----------|----------|
| ① | ア 連携した | イ 個に応じた指導 | ウ 協働学習 | エ 繰り返し学習 |
| ② | ア 協力的な | イ 個別最適な学び | ウ グループ別学習 | エ 反転学習 |
| ③ | ア 連携した | イ 個別最適な学び | ウ グループ別学習 | エ 繰り返し学習 |
| ④ | ア 協力的な | イ 個に応じた指導 | ウ グループ別学習 | エ 繰り返し学習 |
| ⑤ | ア 協力的な | イ 個に応じた指導 | ウ 協働学習 | エ 反転学習 |

【3】「高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編」（平成30年7月 文部科学省）に関する内容について、次の問いに答えよ。

(1) 次の文は、「総説」の保健体育科改訂の要点に関する記述の一部である。文中の（ア）～（ウ）にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

年間指導計画で配当した単元ごとの指導計画を作成する際、資質・能力の三つの柱の具体的な指導内容を計画的に配当し、学習指導要領の趣旨を踏まえた指導を充実することが大切である。その際、生徒の実情、（ア）、（イ）の要件等を踏まえた無理のない計画に基づく実施とその評価及び計画の改善を（ウ）として推進することが、教科における「カリキュラム・マネジメント」として大切である。

- | | | | |
|---|-------|--------|----------|
| ① | ア 教員数 | イ 施設 | ウ 教育活動全体 |
| ② | ア 学級数 | イ 体育用具 | ウ 一体のもの |
| ③ | ア 教員数 | イ 体育用具 | ウ 一体のもの |
| ④ | ア 教員数 | イ 施設 | ウ 一体のもの |
| ⑤ | ア 学級数 | イ 施設 | ウ 教育活動全体 |

14

(2) 次の文は、「保健体育科の目標及び内容」の教科の目標に関する記述の一部である。文中の（ア）～（エ）にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

心と体を一体として捉えとは、生徒の心身ともに健全な発達を促すためには心と体を一体として捉えた指導が重要であることから、引き続き強調したものである。すなわち、心と体の（ア）を踏まえて、運動による心と体への（イ）や健康、特に心の健康が運動と密接に関連していることなどを理解することの大切さを示したものである。そのためには、「（ウ）」など具体的な活動を通して心と体が深くかかわっていることを体得するよう「（エ）」などの内容との関連を図って指導することが必要である。

- | | | | | |
|---|---------|------|--------------|--------------|
| ① | ア 発達の状態 | イ 効果 | ウ 体ほぐしの運動 | エ 精神疾患の予防と回復 |
| ② | ア 発達の状態 | イ 影響 | ウ 体ほぐしの運動 | エ 健康の考え方 |
| ③ | ア 発達の状態 | イ 効果 | ウ 体の動きを高める運動 | エ 精神疾患の予防と回復 |
| ④ | ア バランス | イ 影響 | ウ 体ほぐしの運動 | エ 健康の考え方 |
| ⑤ | ア バランス | イ 効果 | ウ 体の動きを高める運動 | エ 精神疾患の予防と回復 |

15

- (3) 次の文は、「各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い」の体験活動に関する記述の一部である。
文中の(ア)～(エ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

オリンピック・パラリンピックに関する指導の充実を図る観点から、パラリンピック競技大会で実施されている種目などの障害者スポーツを体験したり、(ア)を考える機会を充実したりするなどの工夫も考えられる。その際、障害の程度や特性にかかわらず、全ての生徒が(イ)な体験となるように留意することが大切である。

また、このような体験活動を効果的に実施していくためには、その意義や効果について家庭や地域と共有し、(ウ)することが重要である。さらに、これらの学習を展開するに当たっては、学習の内容と生徒の発達の段階に応じて(エ)を十分に行わなければならない。

- | | | | | | | | | |
|---|---|---------|---|------|---|-------|---|--------|
| ① | ア | 他者との共生 | イ | 参加可能 | ウ | 連携・協働 | エ | けがの防止 |
| ② | ア | 他者との共生 | イ | 実施可能 | ウ | 協力・参画 | エ | 安全への配慮 |
| ③ | ア | スポーツの価値 | イ | 参加可能 | ウ | 連携・協働 | エ | けがの防止 |
| ④ | ア | スポーツの価値 | イ | 実施可能 | ウ | 協力・参画 | エ | 安全への配慮 |
| ⑤ | ア | スポーツの価値 | イ | 実施可能 | ウ | 連携・協働 | エ | 安全への配慮 |

【4】保健分野に関する内容について、次の問いに答えよ。

- (1) 次の文は「高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編」(平成30年7月 文部科学省)における精神疾患の予防と回復に関する記述の一部である。文中の(ア)～(エ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

精神疾患は、精神機能の基盤となる心理的、(ア)、または社会的な機能の障害などが原因となり、認知、(イ)、行動などの不調により、精神活動が不全になった状態であることを理解できるようにする。また、うつ病、(ウ)、不安症、摂食障害などを適宜取り上げ、誰もが罹患しうること、若年で発症する疾患が多いこと、適切な対処により回復し(エ)の向上が可能であることなどを理解できるようにする。

- | | | | | |
|---|--------|------|---------|--------|
| ① | ア 生物学的 | イ 情動 | ウ ひきこもり | エ 生活の質 |
| ② | ア 生理的 | イ 感情 | ウ 統合失調症 | エ 生活習慣 |
| ③ | ア 生理的 | イ 情動 | ウ ひきこもり | エ 生活の質 |
| ④ | ア 生物学的 | イ 情動 | ウ 統合失調症 | エ 生活の質 |
| ⑤ | ア 生物学的 | イ 感情 | ウ 統合失調症 | エ 生活習慣 |

17

- (2) 次の文は「高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編」(平成30年7月 文部科学省)における結婚生活と健康に関する記述の一部である。文中の(ア)～(エ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

結婚生活について、心身の発達や健康の保持増進の観点から理解できるようにする。その際、受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について理解できるようにするとともに、健康課題には年齢や(ア)などが関わることに理解できるようにする。また、家族計画の意義や人工妊娠中絶の(イ)などについても理解できるようにする。また、結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康に対する(ウ)、良好な人間関係や家族や周りの人からの支援、及び母子の健康診査の利用や(エ)などの様々な保健・医療サービスの活用が必要であることを理解できるようにする。

- | | | | | |
|---|--------|----------|---------|--------|
| ① | ア 運動習慣 | イ 母体への影響 | ウ 関心・意欲 | エ 保健相談 |
| ② | ア 生活習慣 | イ 心身への影響 | ウ 責任感 | エ 保健相談 |
| ③ | ア 生活習慣 | イ 心身への影響 | ウ 関心・意欲 | エ 保健相談 |
| ④ | ア 生活習慣 | イ 母体への影響 | ウ 責任感 | エ 産前相談 |
| ⑤ | ア 運動習慣 | イ 心身への影響 | ウ 責任感 | エ 産前相談 |

18

- (3) 次の文は「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成29年7月 文部科学省)における生活習慣病などの予防に関する記述の一部である。文中の(ア)～(エ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

生活習慣病は、日常の生活習慣が要因となって起こる疾病であり、適切な対策を講ずることにより予防できることを、例えば、心臓病、(ア)、歯周病などを適宜取り上げ理解できるようにする。

その際、運動不足、食事の量や質の偏り、休養や睡眠の不足、喫煙、過度の飲酒などの不適切な生活行動を若い年代から続けることによって、やせや肥満などを引き起こしたり、また、心臓や脳などの血管で(イ)が引き起こされたりすることや、歯肉に炎症等が起きたり歯を支える組織が損傷したりすることなど、様々な生活習慣病のリスクが高まることを理解できるようにする。

生活習慣病を予防するには、適度な運動を(ウ)に行うこと、毎日の食事における量や頻度、栄養素のバランスを整えること、喫煙や過度の飲酒をしないこと、(エ)の衛生を保つことなどの生活習慣を身に付けることが有効であることを理解できるようにする。

- | | | | | | | | | |
|---|---|-------|---|------|---|-----|---|----|
| ① | ア | 脳血管疾患 | イ | 動脈硬化 | ウ | 継続的 | エ | 皮膚 |
| ② | ア | 脳血管疾患 | イ | 動脈硬化 | ウ | 定期的 | エ | 口腔 |
| ③ | ア | 脳血管疾患 | イ | 大動脈瘤 | ウ | 定期的 | エ | 口腔 |
| ④ | ア | 悪性新生物 | イ | 大動脈瘤 | ウ | 定期的 | エ | 皮膚 |
| ⑤ | ア | 悪性新生物 | イ | 動脈硬化 | ウ | 継続的 | エ | 口腔 |

- (4) 次の文は「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成29年7月 文部科学省)における欲求やストレスとその対処に関する記述の一部である。文中の(ア)～(エ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

心の健康を保つには、適切な生活習慣を身に付けるとともに、欲求やストレスに適切に対処することが必要であることを理解できるようにする。

欲求には、生理的な欲求と心理的、(ア)な欲求があること、また、精神的な安定を図るには、日常生活に(イ)をもてたり、欲求の実現に向けて取り組んだり、欲求が満たされないときに自分や周囲の状況からよりよい方法を見付けたりすることなどがあることを理解できるようにする。

ここでいうストレスとは、外界からの様々な(ウ)により心身に負担がかかった状態であることを意味し、ストレスの影響は原因そのものの大きさとそれを受け止める人の心や身体の状態によって異なること、個人にとって適度なストレスは、(エ)必要なものであることを理解できるようにする。

- | | | | | | | | | |
|---|---|-----|---|-----|---|----|---|-------|
| ① | ア | 受容的 | イ | 充実感 | ウ | 情報 | エ | 精神発達上 |
| ② | ア | 受容的 | イ | 満足感 | ウ | 刺激 | エ | 精神発達上 |
| ③ | ア | 社会的 | イ | 満足感 | ウ | 刺激 | エ | 精神衛生上 |
| ④ | ア | 社会的 | イ | 充実感 | ウ | 情報 | エ | 精神衛生上 |
| ⑤ | ア | 社会的 | イ | 充実感 | ウ | 刺激 | エ | 精神発達上 |

- (5) 次の文は「高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編」(平成30年7月 文部科学省)における健康を支える環境づくりの思考力、判断力、表現力等に関する記述の一部である。文中の(ア)～(エ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ・食品の安全性と食品衛生に関わる活動について、習得した知識を自他の日常生活に適用して、(ア)の防止と健康を保持増進するための計画を立てること。
- ・医薬品の制度とその活用について、医薬品には(イ)があり、販売に規制が設けられていることと関連付けながら、生活の質の向上のために利用の仕方を整理すること。
- ・地域の保健・医療機関やスポーツ施設の活用の仕方について、関連した情報を整理し、生活の質の向上に向けた課題解決に(ウ)こと。
- ・ヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康に関する環境づくりへ積極的に参加していくために、適切な情報を選択・収集して、(エ)し計画を立てること。

- | | | | | |
|---|--------|--------|--------|---------|
| ① | ア 食中毒 | イ 承認制度 | ウ 活用する | エ 分析・評価 |
| ② | ア 健康被害 | イ 認可制度 | ウ 応用する | エ 取捨選択 |
| ③ | ア 食中毒 | イ 認可制度 | ウ 活用する | エ 分析・評価 |
| ④ | ア 健康被害 | イ 承認制度 | ウ 応用する | エ 分析・評価 |
| ⑤ | ア 健康被害 | イ 承認制度 | ウ 活用する | エ 取捨選択 |

21

- (6) 次の文は、直接圧迫止血法と包帯法について説明したものである。下線部のa～cについて、正しいものを○、誤ったものを×とした場合、正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ・直接圧迫止血法は、出血を止めるために患部を圧迫する方法である。圧迫によって血管が圧縮され、
a 血小板の量が減って血液が固まりやすい。行う際には、清潔なハンカチ、タオル、厚めのガーゼなどを重ねて傷口に当て、その上を手で強く圧迫する。血液からの感染防止のため、できるだけビニール手袋か b アルミホイルなどを使用し、血液に直接触れないようにする。
- ・包帯法は、c 細菌やごみなどから患部を守る、傷口を圧迫して止血する、患部・保護ガーゼ・固定具などを固定する目的で包帯を使用する。巻き包帯、三角巾、ネット包帯、固定具など、患部の状態や用途によって様々な種類の包帯が市販されている。きついと血液の流れを妨げ、ゆるいとほどけやすいので、適切な強さで巻く。

- | | | | |
|---|-----|-----|-----|
| ① | a ○ | b ○ | c × |
| ② | a × | b × | c ○ |
| ③ | a ○ | b ○ | c ○ |
| ④ | a ○ | b × | c × |
| ⑤ | a × | b ○ | c × |

22

(7) 次の文は、おもな精神疾患の症状について説明したものである。下線部の a～c について、正しいものを○、誤ったものを×とした場合、正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ・うつ病は、憂うつで落ち込んだ a 抑うつ気分 と、興味や喜びの減退を感じる状態が特徴的である。思考が緩慢になり、集中力・注意力・理解力・記憶力の低下もみられる。
- ・統合失調症は、おもに b 青年期・壮年期 に発病し、幻覚、妄想など特徴的な症状のほか、意欲やいきいきとした感情が乏しくなる。
- ・不安症は、人前で行動したり他者に注視されたりする場面で、強い恐怖や不安が生じる。顔が赤くなり声が震えるのではないかと、恥ずかしい思いをしたり、迷惑をかけたりするのではないかと、c 過度に緊張し心配になる ことで、日常生活や仕事に支障が生じる。

- | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | a | ○ | b | ○ | c | ○ |
| ② | a | ○ | b | ○ | c | × |
| ③ | a | × | b | × | c | ○ |
| ④ | a | × | b | ○ | c | × |
| ⑤ | a | ○ | b | × | c | ○ |

(8) 次の図は、「JRC蘇生ガイドライン2020」(令和3年6月 医学書院)に示されている一次救命処置のフローチャートである。ア～エにあてはまるものの適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

著作権保護の観点から
掲載いたしません。

- | | | | | | | | | |
|---|---|---------|---|-------|---|------------|---|-----|
| ① | ア | 具合を尋ねる | イ | 約5cm | ウ | 120～130回/分 | エ | 30回 |
| ② | ア | 気道確保を行う | イ | 約10cm | ウ | 100～120回/分 | エ | 20回 |
| ③ | ア | 具合を尋ねる | イ | 約5cm | ウ | 100～120回/分 | エ | 30回 |
| ④ | ア | 気道確保を行う | イ | 約5cm | ウ | 120～130回/分 | エ | 30回 |
| ⑤ | ア | 具合を尋ねる | イ | 約10cm | ウ | 100～120回/分 | エ | 20回 |

(9) 次の文は、自然災害による危険について説明したものである。下線部の a～d について、正しいものを○、誤ったものを×とした場合、正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ・地震や台風、強風、大雨、落雷、竜巻、突風、大雪、火山噴火などの自然現象による被害を a 自然災害 という。
- ・地震が発生すると、家屋の倒壊、家具の転倒、物の落下や移動などによって死傷者が出ることもある。このような a 自然災害 の発生時や発生直後に起こる被害を b 甚大災害 という。
- ・地震発生後に起こる津波や土砂崩れ、地割れ、火災、液状化などの c 二次災害 によって、死傷者が出たり、ガス、電気、水道などの d パイプライン が破壊され通常の生活が困難になったりする。

- ① a ○ b × c × d ○
② a × b × c ○ d ○
③ a ○ b ○ c ○ d ○
④ a × b × c × d ×
⑤ a ○ b × c ○ d ×

- (10) 次の文は、「性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律」(令和5年6月23日 施行)の条文の一部である。下線部のa～dについて、正しいものを○、誤ったものを×とした場合、正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

(定義)

第二条 この法律において「性的指向」とは、恋愛感情又は^a性的感情の対象となる性別についての指向をいう。

2 この法律において「ジェンダーアイデンティティ」とは、自己の属する性別についての認識に関するその同一性の^b有無又は程度に係る意識をいう。

(基本理念)

第三条 性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する施策は、全ての国民が、その性的指向又はジェンダーアイデンティティにかかわらず、等しく^c基本的人権を享有するかけがえのない個人として尊重されるものであるとの理念にのっとり、性的指向及びジェンダーアイデンティティを理由とする不当な差別はあつてはならないものであるとの認識の下に、相互に人格と個性を尊重し合いながら^d共生する社会の実現に資することを旨として行われなければならない。

- ① a ○ b ○ c × d ×
- ② a × b × c ○ d ×
- ③ a ○ b ○ c ○ d ○
- ④ a ○ b × c × d ○
- ⑤ a × b ○ c × d ○

26

- (11) 次の文は、「災害時の熱中症予防」(内閣府、消防庁、環境省、厚生労働省)に示されている避難生活・片付け作業時の注意点である。適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 作業開始前には必ず体調を確認し、体調が悪い場合は作業を行わないようにしましょう。
- ② 高齢者、子ども、障害者の方々は特に注意しましょう。
- ③ やむを得ず車中泊をする場合、車両は日陰や風通しの良い場所に駐車しましょう。夜間等寝るときもエンジン等をつけ室内の気温を一定に保ちましょう。
- ④ できるだけ2人以上で作業を行い、作業中はお互いの体調を確認するようにしましょう。
- ⑤ 休憩・水分・塩分の補給は、一定時間毎にとるようにしましょう。また、休憩時には、日陰等の涼しい場所を確保しましょう。

27

- (12) 次の図は、免疫の仕組みを表している。ア～エにあてはまる適切な語句の組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

著作権保護の観点から
掲載いたしません。

- | | | | | | | | | |
|---|---|---------|---|-------|---|---------|---|------|
| ① | ア | ヘルパーT細胞 | イ | 指令を出す | ウ | キラーT細胞 | エ | 抗体 |
| ② | ア | キラーT細胞 | イ | 指令を出す | ウ | ヘルパーT細胞 | エ | 抗体 |
| ③ | ア | ヘルパーT細胞 | イ | 指令を出す | ウ | キラーT細胞 | エ | 抗生物質 |
| ④ | ア | キラーT細胞 | イ | 攻撃する | ウ | ヘルパーT細胞 | エ | 抗生物質 |
| ⑤ | ア | ヘルパーT細胞 | イ | 攻撃する | ウ | キラーT細胞 | エ | 抗体 |

(13) 次の表は、「がんを防ぐための12か条 ハンドブックVer.3」(令和8年3月 公益財団法人 がん研究振興財団)に示された「がんを防ぐための12か条」をまとめたものである。ア～オにあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

1条	たばこは ア
2条	他人のたばこの煙を避ける
3条	お酒は イ
4条	バランスのとれた食生活を
5条	ウ 食品は控えめに
6条	野菜や果物は不足にならないように
7条	エ
8条	適切な体重維持
9条	ウイルスや細菌の感染予防と治療
10条	定期的な オ を
11条	身体の異常に気がついたら、すぐに受診を
12条	正しいがん情報でがんを知ることから

- | | | | | | |
|---|--------|--------|-------|---------|--------|
| ① | ア 控える | イ 飲まない | ウ 塩辛い | エ 適度に睡眠 | オ がん検診 |
| ② | ア 吸わない | イ 控える | ウ 甘い | エ 適度に運動 | オ がん検診 |
| ③ | ア 控える | イ 控える | ウ 甘い | エ 適度に睡眠 | オ がん検診 |
| ④ | ア 吸わない | イ 控える | ウ 塩辛い | エ 適度に運動 | オ がん検診 |
| ⑤ | ア 吸わない | イ 飲まない | ウ 甘い | エ 適度に運動 | オ 健康診断 |

- (14) 次の文は、自転車安全利用五則のうち「車道が原則、左側を通行 歩道は例外、歩行者を優先」について説明したものである。下線部の a～d について、正しいものを○、誤ったものを×とした場合、正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

◆路側帯を通行できる場合

- ・ 白の a 三本線の標示 (歩行者専用路側帯) のある部分を除き、路側帯を通過することができる。
- ・ 左側部分に設けられた路側帯を通行する。

◆歩道は歩行者優先

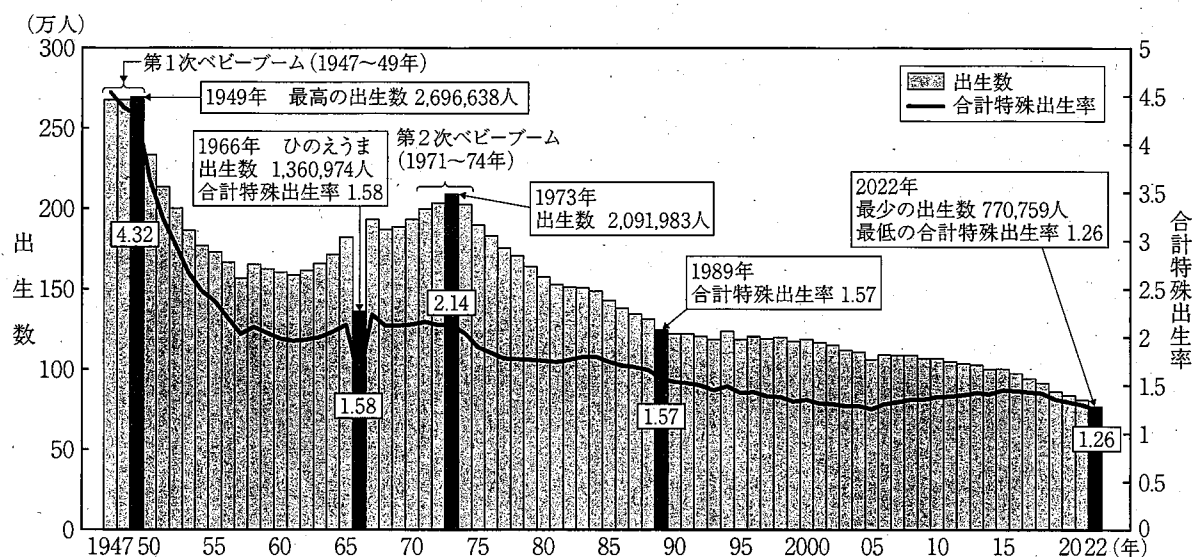
- ・ b 車道寄り の部分を徐行する。
- ・ 歩行者の通行を妨げるような場合は c 徐行 する。

◆歩道を通行できる場合

- ・ 歩道に「普通自転車歩道通行可」の標識があるときに通行できる。
- ・ d 15歳未満 の子供や70歳以上の高齢者などが運転者の場合に通行できる。

- | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | a | ○ | b | × | c | × | d | ○ |
| ② | a | × | b | ○ | c | ○ | d | ○ |
| ③ | a | ○ | b | × | c | ○ | d | ○ |
| ④ | a | × | b | ○ | c | × | d | × |
| ⑤ | a | ○ | b | × | c | ○ | d | × |

(15) 次の図は、「令和6年版こども白書」（こども家庭庁）における、出生数と合計特殊出生率の推移を示したグラフである。その説明として適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。



- ① 2022年の出生数は77万759人で、最少の数字となり、80万人を割った。
- ② 出生数は、第1次ベビーブーム期（1947～1949年）には約270万人であった。
- ③ 出生数は、第2次ベビーブーム期（1971～1974年）には約210万人であったが、その後減少を続け、こどもの数はピークの4分の1以下にまで減少した。
- ④ 合計特殊出生率の推移を見ると、第1次ベビーブーム期には4.3を超えていたが、第2次ベビーブーム期には約2.1まで低下した。
- ⑤ 合計特殊出生率の推移を見ると、1949年には4.32だったものが、1989年には1.57まで落ち込み、その後、2022年には1.26と過去最低となった。

31

(16) 次の図は、SDGsの17のゴールのうち5つを示したものである。番号と目標を示す言葉が適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

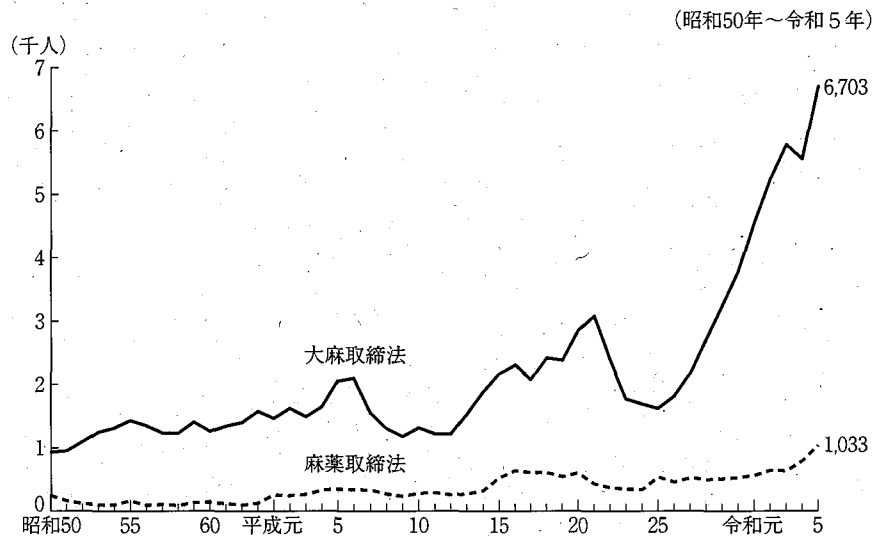
著作権保護の観点から掲載いたしません。

- ① 5：貧困をなくそう
- ② 6：つくる責任つかう責任
- ③ 8：産業と技術改革の基盤をつくろう
- ④ 13：陸の豊かさを守ろう
- ⑤ 17：パートナーシップで目標を達成しよう

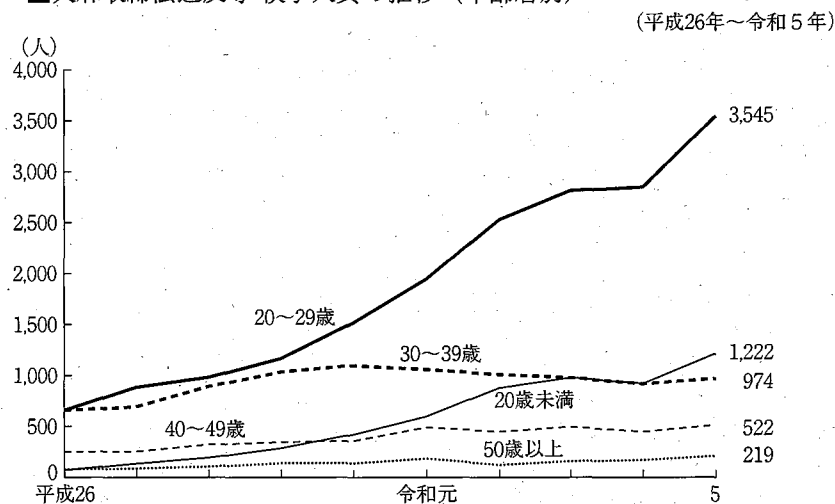
32

- (17) 次の図は、「令和6年版犯罪白書」(法務省)の大麻取締法違反等 検挙人員の推移について表したグラフである。その説明として適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

■大麻取締法違反等 検挙人員の推移 (罪名別)



■大麻取締法違反等 検挙人員の推移 (年齢層別)



- ① 大麻取締法違反は、平成6年と平成21年をピークとする波が見られ、平成23年から急上昇している。
- ② 大麻取締法違反は、平成20年から10年連続で増加し、29年から令和3年までは、昭和46年以降における最多を記録し続けた。
- ③ 大麻取締法違反は令和4年はやや減少したものの、5年は再び増加し、6,703人であった。
- ④ 大麻取締法違反の年齢層別の検挙人員の推移は、20歳代の検挙人員は、平成26年から減少し続けており、令和5年は3,545人で過半数を占めた。
- ⑤ 20歳未満の検挙人員は、平成26年以降減少傾向にあり、令和5年は1,222人であった。

【5】 体育分野に関する内容について、次の問いに答えよ。

(1) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成29年7月 文部科学省)における、体ほぐしの運動の行い方の例に関する記述の一部である。第3学年の行い方の例として正しいものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 大きくリズムカルに全身や体の各部位を振ったり、回したり、ねじったり、曲げ伸ばしたりすること。
- ② 体の各部位をゆっくり伸展し、そのままの状態で約10秒間維持すること。
- ③ いろいろなフォームで様々な用具を用いて、タイミングよく跳んだり転がしたりすること。
- ④ 大きな動作で、ボールなどの用具を、力を調整して投げたり受けたりすること。
- ⑤ いろいろな条件で、歩いたり走ったり跳びはねたりする運動を行うことを通して、気付いたり関わり合ったりすること。

34

(2) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成29年7月 文部科学省)における、体づくり運動の思考力、判断力、表現力等の例示に関する記述の一部である。第3学年の例示として適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 体ほぐしの運動で、「心と体の関係や心身の状態に気付く」、「仲間と積極的に関わり合う」ことを踏まえてねらいに応じた運動を選ぶこと。
- ② ねらいや体力の程度を踏まえ、自己や仲間の課題に応じた強度、時間、回数、頻度を設定すること。
- ③ 健康や安全を確保するために、体力や体調に応じた運動の計画等について振り返ること。
- ④ 課題を解決するために仲間と話し合う場面で、合意形成するための関わり方を見付け、仲間に伝えること。
- ⑤ 体力の程度や性別等の違いに配慮して、仲間とともに体づくり運動を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けること。

35

(3) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成29年7月 文部科学省)における、器械運動の学びに向かう力、人間性等の例示に関する記述の一部である。第3学年の例示として適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 器械運動の学習に自主的に取り組もうとすること。
- ② 自己の状況にかかわらず、互いに讃え合おうとすること。
- ③ 仲間に課題を伝え合ったり補助し合ったりして、互いに助け合い教え合おうとすること。
- ④ 一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとする事。
- ⑤ 健康・安全を確保すること。

36

(4) 次の図は、鉄棒運動の組み合わせ技を示した図である。技の順番として適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

著作権保護の観点から
掲載いたしません。

- ① け上がり → 後方伸膝支持回転 → 踏み越し下り
- ② け上がり → 前方伸膝支持回転 → 支持跳び越し下り
- ③ け上がり → 前方伸膝支持回転 → 踏み越し下り
- ④ 逆上がり → 前方伸膝支持回転 → 支持跳び越し下り
- ⑤ 逆上がり → 後方伸膝支持回転 → 支持跳び越し下り

37

- (5) 次の図は、陸上競技の砲丸投げにおける、砲丸が落ちた位置を示したものである。ア～エにあてはまる有効及び無効の組合せとして適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

著作権保護の観点から
掲載いたしません。

- ① ア 有効 イ 有効 ウ 有効 エ 有効
② ア 無効 イ 有効 ウ 有効 エ 有効
③ ア 無効 イ 無効 ウ 有効 エ 有効
④ ア 無効 イ 無効 ウ 無効 エ 有効
⑤ ア 無効 イ 無効 ウ 無効 エ 無効

38

- (6) 次の表は、「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成29年7月 文部科学省)における、陸上競技の短距離走・リレーの動きの例に関する記述の一部である。下線部のa～dについて、正しいものを○、誤ったものを×とした場合、正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

種目	中学校1・2年	中学校3年
短距離走・リレー	・クラウチングスタートから <u>a すぐに</u>上体を起こしていき加速すること ・ <u>b 自己に合った</u>ピッチとストライドで速く走ること ・リレーでは、次走者がスタートするタイミングやバトンを受け渡すタイミングを合わせる。	・スタートダッシュでは地面を力強くキックして、 <u>a すぐに</u>上体を起こしていき加速すること ・後半でスピードが著しく低下しないよう、 <u>c 力強い</u>リズムカルな動きで走ること ・リレーでは、次走者はスタートを切った後 <u>d 徐々に</u>加速して、スピードを十分に高めること

- ① a ○ b ○ c × d ×
② a × b × c ○ d ×
③ a ○ b ○ c ○ d ○
④ a ○ b × c × d ○
⑤ a × b ○ c × d ×

39

(7) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成29年7月 文部科学省)における、水泳の思考力、判断力、表現力等の例示に関する記述の一部である。第1学年及び第2学年の例示として適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに水泳を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けること。
- ② 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えること。
- ③ 提供された練習方法から、自己の課題に応じて、泳法の習得に適した練習方法を選ぶこと。
- ④ 学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えること。
- ⑤ 仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けること。

40

(8) 次の文は、「学校体育実技指導資料 第4集 水泳指導の手引(三訂版)」(平成26年3月 文部科学省)における、浮力、抵抗、水圧に関する記述の一部である。下線部のa～cについて、正しいものを○、誤ったものを×とした場合、正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

1. 浮力：主に水中での a 身体を進める力 に関する運動に影響します。特に、体を浮かせることや沈むことに関する力学的知識「重心・浮心(浮力の作用点)」の位置関係が重要です。また、浮いたり沈んだりする際の、無重量状態に近い感覚は、水中での楽しさが増すことになります。
2. 抵抗：主に水中で b 身体バランス に関する運動に影響します。推進力を生み出すために必要な体の姿勢の維持、特に抵抗を少なくした流線型の姿勢(stream line posture)について理解することが重要です。
3. 水圧：主に水中での c 呼吸 に影響します。水圧が、呼吸に関する運動に大きな影響を与えていることを理解する必要があります。水中での呼吸は僅かでも水圧の影響を受けるので、腹式呼吸法による正確な息継ぎを習得することが重要です。

- ① a ○ b × c ×
- ② a × b × c ○
- ③ a ○ b ○ c ○
- ④ a × b × c ×
- ⑤ a ○ b ○ c ×

41

(9) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成29年7月 文部科学省)における、球技の技能の例示に関する記述の一部である。第1学年及び第2学年の例示として適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすること。
- ② マークされていない味方にパスを出すこと。
- ③ 味方が操作しやすい位置にボールをつなぐこと。
- ④ ボールを相手側のコートの中へ打ち返すこと。
- ⑤ 地面と水平になるようにバットを振り抜くこと。

42

(10) 次の文は、ハンドボールのルールについて説明したものである。適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① ゲーム中の同一プレーヤーの交代は2回までである。
- ② 明らかな得点の機会を違反行為によって阻止したときは、フリースローが与えられる。
- ③ パッシブプレーがあった場合、レフリースローは予告合図を示し、攻撃側が最大4回のパスの後、シュートをしなかった場合、相手チームにフリースローが与えられる。
- ④ 7 mスローの時、攻撃側に反則があつて得点にならなかった場合も、やり直しとなる。防御側が違反した場合は入っても得点にならず、相手にフリースローが与えられる。
- ⑤ 攻撃側にルール違反がなく、ボールの一部がゴールポスト内のゴールラインを通過したとき1点の得点になる。

43

- (11) 次の文は、ソフトボールに関するルールについて説明したものである。ア～オの説明について、正しいものを○、誤ったものを×とした場合、正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

ア 投手は打者に対して投球するときには、軸足をピッチャーズプレートに触れ、体の前または横で両手でボールを持ち、両腰は1塁と3塁を結んだ線と平行に保ち、2秒以上5秒以内、体全体を完全に静止する。

イ 投球は投手の片手がボールから離れたとき、または投手がwindアップのための動作を起こした時に始まり、前方にステップして打者へ投球する。この際のステップは2歩まで許される。

ウ 投手は球審がプレーを指示した後、またはボールを受け取ったら、20秒以内に次の投球をしなければならない。

エ 打者は、主審が「プレーボール」を宣告した後、20秒以内に攻撃姿勢をとらなければならない。

オ 走者がタッチプレーを避けるため、塁間を結ぶ線から3フィート以上離れて走った時、走者はアウトになる。

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | ア | ○ | イ | × | ウ | ○ | エ | ○ | オ | ○ |
| ② | ア | ○ | イ | ○ | ウ | × | エ | ○ | オ | × |
| ③ | ア | ○ | イ | × | ウ | ○ | エ | × | オ | ○ |
| ④ | ア | × | イ | ○ | ウ | × | エ | ○ | オ | × |
| ⑤ | ア | × | イ | × | ウ | ○ | エ | × | オ | ○ |

(12) 次の文は、卓球に関するルールについて説明したものである。適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① サービスの開始からボールが打たれるまでの間、体の一部または着用している物でボールをレシーバーから隠してはならない。
- ② サービス時のトスは、ボールに回転を与えないようにほぼ垂直方向に15cm以上投げ上げなければならない。
- ③ サービスの打球時のボールの位置は、エンドラインの後方で、体の前でなければならない。
- ④ サービスがネットやサポートに触れてから相手競技者のコートに入ったり、レシーブ側のコートにワンバウンドする前にオブストラクトになった場合はレットにならない。
- ⑤ ゲームが10分経過しても終了しない場合、促進ルールが適用される。しかし、両者のスコアの合計が20以上の場合、そのゲームには適用しない。

45

(13) 次の図は、卓球のリターンのボールの軌跡を示したものである。ア～オの軌跡について正しいリターン（○）と、相手の得点になってしまうリターン（×）の、適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

著作権保護の観点から
掲載いたしません。

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | ア | ○ | イ | × | ウ | × | エ | ○ | オ | × |
| ② | ア | ○ | イ | ○ | ウ | × | エ | × | オ | ○ |
| ③ | ア | ○ | イ | ○ | ウ | ○ | エ | ○ | オ | ○ |
| ④ | ア | × | イ | × | ウ | ○ | エ | × | オ | ○ |
| ⑤ | ア | × | イ | ○ | ウ | × | エ | × | オ | × |

46

(14) 次の文は、柔道競技の「指導」と「反則負け」について説明したものである。適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 相手の顔面に直接手または腕、足または脚をかけた場合は反則負けとなる。
- ② 背を畳につけている相手を引き上げ、これを畳に突き落とした場合は指導となる。
- ③ 試合者の一方が後ろからからみついた時、これを制しながら、故意に同体となって後方に倒れた場合は反則負けとなる。
- ④ 相手の帯もしくは襟に足や脚をかけた場合は反則負けとなる。
- ⑤ 背中から着地することやスコアを取られることを防ぐため故意に頭部を使用した場合は指導となる。

47

(15) 次の図は、柔道の審判のジェスチャーを示したものである。図とア～エにあてはまる名称の組合せで適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

著作権保護の観点から
掲載いたしません。

- | | | | |
|---------|---------|-------------|-------------|
| ① ア 技あり | イ 待て | ウ 消極的指導 | エ 抑え込み「解けた」 |
| ② ア 技あり | イ 消極的指導 | ウ 抑え込み「解けた」 | エ 待て |
| ③ ア 技あり | イ 待て | ウ 抑え込み「解けた」 | エ 消極的指導 |
| ④ ア 待て | イ 技あり | ウ 抑え込み「解けた」 | エ 消極的指導 |
| ⑤ ア 待て | イ 技あり | ウ 消極的指導 | エ 抑え込み「解けた」 |

48

- (16) 次の図は、サッカーのゴールとボールの位置を示したものである。ア～オについて、得点になる位置（○）と、得点にならない位置（×）の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。なお、ア～オはいずれも両ゴールポストの間とクロスバーの下に位置するものとする。

著作権保護の観点から
掲載いたしません。

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | ア | ○ | イ | × | ウ | × | エ | × | オ | × |
| ② | ア | ○ | イ | ○ | ウ | × | エ | × | オ | ○ |
| ③ | ア | ○ | イ | ○ | ウ | ○ | エ | × | オ | ○ |
| ④ | ア | ○ | イ | ○ | ウ | ○ | エ | ○ | オ | ○ |
| ⑤ | ア | ○ | イ | ○ | ウ | × | エ | × | オ | × |

49

- (17) 次の文は、ラグビーのルールについて説明したものである。適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① ボールを相手側のデッドボールラインの方向にパスしたり、投げたりするとノックフォワードの反則になる。
- ② 相手のデッドボールラインの方向に、ボールを落とす、または手や腕で、ボールを押す、たたくなどして進め地面や相手にボールが触れるとスローフォワードの反則になる。
- ③ ノックフォワードやスローフォワードを故意に行うと相手側にスクラムとなり、故意ではないときはペナルティキックが与えられる。
- ④ スローフォワードまたはノックフォワードしたボールがタッチに出たとき、反則しなかった側は、スクラムまたはラインアウトを選択できる。また、クイックスローイングも行うことができる。
- ⑤ ラックに参加するときは、少なくとも片方の腕をラックの中の味方のプレーヤーにまわしてマークしなければならない。

※「ノックフォワード」は2025年1月競技規則の改正によって「ノックオン」が変更されたものである。

50

(18) 次の文は、バドミントンのサービスに関するルールの記述である。適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① サービス権に関係なく、ラリーに勝った方に得点が与えられる。
- ② サービスは、相手の対角コート（斜め向かい）に向かって打つ。
- ③ サービスを故意に遅らせたり、動作を中断させたりするとフォルトになる。
- ④ サービスで、シャトルが打たれる前に足をコートから離したり、ずらしたりするとフォルトになる。
- ⑤ サーバーのラケットで打たれる瞬間に、シャトルの一部がコート面から1.25mの高さより高かった場合はフォルトになる。

51

(19) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 保健体育編」（平成29年7月 文部科学省）における創作ダンスの例示に関する記述の一部である。第1学年及び第2学年の多様なテーマと題材の動きの例示として適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 身近な生活や日常動作（出会いと別れ、街の風景、綴られた日記 など）
 - ・「出会いと別れ」では、すれ違ったりくっついたり離れたりなどの動きを、緩急強弱を付けて繰り返して表現すること。
- ② 対極の動きの連続（ねじる ― 回る ― 見る など）
 - ・「ねじる ― 回る ― 見る」では、ゆっくりギリギリまでねじって力をためておき、素早く振りほどくように回って止まり、視線を決めるなどの変化や連続のあるひと流れの動きで表現すること。
- ③ 多様な感じ（激しい、急変する、軽快な、柔らかな、鋭い など）
 - ・生活や自然現象、人間の感情などの中からイメージを捉え、緩急や強弱、静と動などの動きを組み合わせ変化やメリハリを付けて表現すること。
- ④ 群（集団）の動き（大回り ― 小回り、主役と脇役、迷路、都会の孤独 など）
 - ・「大回り ― 小回り」では、個や群で大きな円や小さな円を描くなどを通して、ダイナミックに空間が変化するように動くこと。
- ⑤ もの（小道具）を使う（椅子、楽器、ロープ、傘 など）
 - ・「椅子」では、椅子にのぼる、座る、隠れる、横たわる、運ぶなどの動きを繰り返して、「もの」との関わり方に着目して表現すること。

52

- (20) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成29年7月 文部科学省)におけるダンスの知識及び技能に関する第1学年及び第2学年の記述の一部である。文中の(ア)～(エ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

(1) 次の運動について、感じを込めて踊ったりみんなで踊ったりする楽しさや喜びを味わい、ダンスの特性や由来、表現の仕方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、イメージを捉えた表現や踊りを通した(ア)こと。

ア 創作ダンスでは、多様なテーマから表したいイメージを捉え、動きに変化を付けて即興的に表現したり、変化のある(イ)の表現にしたりして踊ること。

イ フォークダンスでは、日本の民踊や外国の踊りから、それらの踊り方の特徴を捉え、音楽に合わせて特徴的な(ウ)や動きで踊ること。

ウ 現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴を捉え、変化のある動きを組み合わせ、リズムに乗って(エ)踊ること。

- | | | | | | | | | |
|---|---|-------|---|--------|---|------|---|--------|
| ① | ア | 交流をする | イ | ひと流れ | ウ | ステップ | エ | 大きな動作で |
| ② | ア | 交流をする | イ | ひとまとまり | ウ | ステップ | エ | 全身で |
| ③ | ア | 交流をする | イ | ひとまとまり | ウ | 組み方 | エ | 大きな動作で |
| ④ | ア | 発表をする | イ | ひと流れ | ウ | ステップ | エ | 全身で |
| ⑤ | ア | 発表をする | イ | ひとまとまり | ウ | 組み方 | エ | 全身で |

53

- (21) 次の文は、アーバンスポーツについて説明したものである。適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① オリンピックで採用された若者に人気のある新種目を盛り上げ、東京2020の成功に寄与すること、そしてレガシーの創造を支援することを目的に、一般社団法人日本アーバンスポーツ支援協議会が設立された。これにより“アーバンスポーツ”という言葉が市民権を得たとも言える。
- ② アーバンスポーツが採用された背景には、国際オリンピック委員会(IOC)が若者の五輪離れに危機感を抱いたことがあるとされている。
- ③ 2017年、東京2020の準備状況を監督する(IOC)調整委員会の会合において、都会風の会場群を意味する「アーバンクラスター」構想が議論され始めた。
- ④ 東京2020(2020年東京オリンピック・パラリンピック競技会)において、若者に人気のあるスケートボード、サーフィン、スポーツクライミング、インラインスケート、バスケットボール3人制、自転車のBMXフリースタイルが採用された。
- ⑤ アーバンスポーツはエクストリームスポーツに包含されるものである。

54

【6】 体育理論に関する内容について次の問いに答えよ。

- (1) 次の文は「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成29年7月 文部科学省)における運動やスポーツの多様性に関する第1学年及び第2学年の記述の一部である。下線部a～cについて、正しいものを○、誤ったものを×とした場合、正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

世代や機会に応じて、生涯にわたって運動を楽しむためには、自己に適した運動やスポーツの多様な楽しみ方を見付けたり、工夫したりすることが大切であることを理解できるようにする。

健康を維持したりする必要性に応じて運動を実践する際には、a 体ほぐしの運動の学習を例に、体を動かすことの心地よさを楽しんだり、体の動きを高めることを楽しんだりする行い方があることを理解できるようにする。

競技に応じた力を試す際には、ルールやマナーを守りフェアに競うこと、世代や機会に応じてルールを工夫すること、勝敗にかかわらず b 健闘を称え合う等の行い方があることなどを理解できるようにする。

自然と親しんだり、仲間と交流したり、感情を表現したりする際には、互いの違いやよさを肯定的に捉えて自己やグループの c 課題の達成を楽しむ等の仲間と協働して楽しむ行い方があることを理解できるようにする。

- | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | a | ○ | b | × | c | × |
| ② | a | × | b | ○ | c | ○ |
| ③ | a | × | b | × | c | × |
| ④ | a | ○ | b | ○ | c | ○ |
| ⑤ | a | × | b | ○ | c | × |

- (2) 次の文は「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成29年7月 文部科学省)における運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方に関する記述の一部である。下線部 a～c について、正しいものを○、誤ったものを×とした場合、正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

体との関連では、発達の段階を踏まえて、適切に運動やスポーツを行うことは、身体の発達やその機能、体力や運動の技能を維持、向上させるという効果があることや食生活の改善と関連させることで、a 生活習慣病予防の効果が期待できることなどを理解できるようにする。

心との関連では、発達の段階を踏まえて、適切に運動やスポーツを行うことで、b 達成感を得たり、自己の能力に対する自信をもったりすることができること、ストレスを解消したりリラックスしたりすることができること、などの効果が期待できることを理解できるようにする。

また、体力や技能の程度、年齢や性別、障害の有無等の様々な違いを超えて、運動やスポーツを行う際に、ルールやマナーに関して合意形成することや適切な人間関係を築くことなどの、c 協調性が求められることから、例えば、違いに配慮したルールを受け入れたり、仲間と教え合ったり、相手のよいプレイに称賛を送ったりすることなどを通して、c 協調性が高まることを理解できるようにする。

- ① a ○ b × c ×
 ② a ○ b × c ○
 ③ a × b × c ×
 ④ a × b ○ c ○
 ⑤ a × b ○ c ×

56

- (3) 次の文は「高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編」(平成30年7月 文部科学省)における運動やスポーツの効果的な学習の仕方に関する記述の一部である。下線部 a～c について、正しいものを○、誤ったものを×とした場合、正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

運動やスポーツを行う際は、a 天気の変化など様々な危険を予見し、回避することが求められることと及び、a 天気や自然環境の変化など様々な危険を予見し回避するためには、けがや事故の防止のための対策、発生時の処置、b 安定期の対処などの各場面での適切な対応方法を想定しておくこと、けがや事故につながりそうな体験から行動や、c 運動計画の修正を図ることが有効であることを理解できるようにする。

- ① a ○ b × c ×
 ② a ○ b × c ○
 ③ a × b × c ×
 ④ a ○ b ○ c ○
 ⑤ a × b ○ c ×

57

(4) 次の文は、オリンピックとパラリンピックの価値について説明したものである。適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 卓越：スポーツに限らず人生においてベストを尽くすこと。大切なのは勝利することではなく、目標に向かって全力で取り組むことであり、体と頭と心の健全な調和をはぐくむことである。
- ② 友情：スポーツでの喜びやチームスピリット、対戦相手との交流は人と人をつなぎ付け、互いの理解を深める。そのことは平和でよりよい世界の構築に寄与する。
- ③ 敬意/尊重：互いに敬意を払い、ルールを尊重することはフェアプレー精神をはぐくむ。これはオリンピック・ムーブメントに参加するすべての人にとっての原則である。
- ④ 勇気：人の心を揺さぶり、駆り立てる力
- ⑤ 強い意志：困難があっても、諦めず限界を突破しようとする力。

58

(5) 次の文は、「運動やスポーツの効果的な学習の仕方」について説明したものである。適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 技能や体力を向上させるためには、それまでに行っていた運動より難度や強度が高い運動を行う必要がある。これを、オーバーロードの原理という。
- ② トレーニングの5原則のうち、その個人の能力や特性に応じた練習やトレーニングを行う必要があることを「漸進性」という。
- ③ 球技や武道などのように、たえず変化する状況のなかで用いられる技能をオープンスキルという。
- ④ 相手やまわりの状況に応じて最適な技術を選択したり、技術と技術を組みあわせたりすることが不可欠である。そのための合理的な方法を戦術という。
- ⑤ 技能がある程度向上すると、一時的な停滞や低下の時期が訪れる。この停滞がプラトー、低下がスランプである。

59

- (6) 次の文は、中学校第2学年で扱う「運動やスポーツの意義や効果的な学び方や安全な行い方」の授業を行った後の生徒が書いた振り返りシートの記述である。それを読んだ教師がコメントを記入するとした際、コメントとして適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

今日の授業では、体力の意味について知りました。体力は「巧みさ」「力強さ」によって成り立っています。運動を行う時は、事前に計画を立てることが重要です。また、運動前、運動中、運動後で気を付けることがあることも分かりました。安全にスポーツを行うには、スポーツ障害への理解も大切です。私たち、中学生の成長期には、特有の障害が発生しやすいです。運動やスポーツを行う際には、体だけでなく脳も使っているので、ある動作を思い通り行うために、ポイントを意識して組みたいと思います。

- ① 体力は「巧みさ」「力強さ」の他にも、「柔らかさ」「粘り強さ」も含めて成り立っています。
- ② 運動の計画を立てるときは、強度・時間・頻度に配慮した計画を事前に立てる必要があります。
- ③ 運動前は健康状態の確認、準備運動が大切です。運動中は水分補給、休憩をとるよう心がけましょう。
- ④ 成長期によく発症するのは、オスグッド・シュラッター病や野球肘などです。
- ⑤ 動作を思い通り行うためには、動画等を参考にせず、「上手な人の動きを参考に練習する」「上手にできた動きを繰り返し続ける」のポイントを意識するといいですね。

